



発行
愛知縣中川中學校
愛知県立松蔭高等学校
同窓会
名古屋市中村区烏森町
2-2
TEL 052-481-9471
印刷
マツモト印刷株式会社

磨く・拓く・翔(はばた)く



校長
戸倉 隆

まつかげ会会員の皆様方におかれましては、ご健勝で
ご活躍のこととお喜び申し上げます。日頃は、母校松蔭
高校の教育にご支援、ご協力、そして何より心からの応
援をいただいておりますこと、深く感謝申し上げます。

私はこの春の人事異動で松蔭高校に着任いたしました。
た。高校卒業まで関西で過ごし、愛知県で教職に就き本
校が6校目です。最後の教員生活となるため愛知県での
母校と思っています。よろしく願います。

松蔭高校で三カ月過ぎました。まず何より感じてい
ますのは、グラウンドや校舎に溢れる生徒達の活力、一
生懸命で温かい雰囲気です。そして、赴任が発表になっ
た折にいただいた多くの先生方の松蔭高校に対する想い
の深さです。温かい励ましのお言葉を、歴代校長先生を
始めとしてお勤めになられた先生方から本当にたくさん
いただきました。私自身も負けない熱意をもって務めな
ければならないと気持ちが引き締まりました。

さて、一学期始業式辞は、私にとって全校生徒の前
で話す最初の機会でした。そこで校訓についての話をし
ました。

「校訓は、短いフレーズなので、いつまでも記憶・心
に残ります。そして一人一人が自分なりにその意味に思
いを巡らし、学校生活の羅針盤にすることが出来ます。」
と述べ、自分自身が松蔭高校の校訓から感じたことを次
のように紹介しました。

「まず、『磨く』

一人一人が向上心をもって努力する大切さはもちろん
ですが、『切磋琢磨』という言葉があるように、お互い
が刺激し合って共に成長してゆくことの大切さが込めら
れていると感じました。

『拓く』

新しい道を切り拓く、つまり挑戦する気概を持つこと、
また行く手を阻む障害を切り拓いて前に進む逞しさを感じ
ました。

『翔く』からは、新しい広い世界への飛躍、若者が海
外へ飛び立ち活躍することなどをイメージしました。

皆さんは何を感じるでしょうか。

校訓は松蔭生への思いが込められた言葉です。校訓を
胸にそれぞれ充実した一年間を過ごしてください。私も
この校訓を大事にしていきたいと思っています。」

校訓「磨く・拓く・翔(はばた)く」は平成12年、創
立60周年を記念して制定されたことはご存知のとおりで
す。21世紀を目前に控えた、そして人間にとっては還暦
に相当する創立60周年という大きな節目でした。
当時の記録には、作者田島一宏氏(松蔭高校卒10回生)
の作品の意図が残されています。

「過去60年間の、松蔭高校の卒業生は、伝統であった『躍
動』をもとに、各界にその足跡を残してまいりました。

今、ここで21世紀を迎えるにあたり、少し立ち止まっ
て、各自の足下を見つめていく必要があると思います。
それは、それぞれの天分である個性と、自分自身を磨
くことにあります。そして、広く世界は個々の立場で新
しい分野と、フロンティア精神を持って切り拓いてくこ
とが大切であると考えます。

そして、自然の一員として、地球人としての自覚はも
とより、広く宇宙までも羽ばたいていく覚悟が、これか
らの後期中等教育に求められていると考え、提案いたし
ました。」

20年前の一文ですが、現在まさに高等学校教育に求め
られていることが、見事に的確に、同時に大変大きなス
ケールで校訓に込められていることに驚きます。改めて
大事にしなければと思いました。

学校の近況を紹介します。平成29年度高校入試から尾
張1、2群共通校として、本校には大変多くの中学生が
志願しています。また、県内の広い地域の中学校から入
学していることも特徴です。地域だけでなく、尾張地区
全体から注目され、期待されていることは光栄であるこ
とにも、その期待に応えるべく本校も進化していかな
くはなりません。その一つとして今年度から65分授業を
導入いたしました。高校で学ぶ学習内容は非常に広く、
深いものです。65分授業は授業時間を確保できることと、
7限授業とは違い終業時間が毎日揃い、部活動との両立
がしやすいことから、県内はもとより全国的にも導入し
ている進学校が多くあります。

令和3年度には、センター試験の廃止と大学入学共通
テスト導入等、大学入学者選抜制度が大きく変わります。
また令和4年度からは新学習指導要領が年次進行で実施
されます。松蔭高校が八十周年を迎える令和2年度は高
等学校教育にとっても大きな節目の年であります。65分
授業の円滑な運営とより有効な活用を研究し、松蔭高校
の発展に繋げる一年にしたいと思っています。

最後に、来年度の八十周年事業成功に向けてまつかげ
会の皆様方の一層のご支援をお願い申し上げ、ご挨拶と
させていただきます。

和太鼓部全国総合文化祭 出場に寄せて



教頭

大橋 一幸

平成三十一年三月十五日の夕刻、職員室にいた私は橋元教頭先生と目が合い、校長室に入るよう促された。人事異動の内示である。本館の東端にある職員室から西端にある校長室までおよそ四〇mの廊下を歩きながら、「五年しか、母校にいたことができなかった！」という無念さが頭をよぎった。校長室のソファアに座ると、当時の大野校長先生より「松蔭高校の教頭として異動を命じる」との言葉を聞いたとき、私は耳を疑った。その場のやりとりは、それ以後、あまり覚えていない。

時はさかのぼり、一九八四年の高校入試の日、私は二〇人もいないくらいの教室で受験したと記憶している。当時の定員は四五〇名。私の受験番号は四七四番。志願変更をしたため、定員を上回る数字の受験番号が繰起でもないと少々不安になった。

合格発表の日、その場に居合わせた同じ中学出身のA君と、一号館一階の窓に張り出された合格発表の番号を見て、歓喜のあまりA君と抱き合って喜んだ。A君もまた、松蔭高校に合格していた。私立高校入試の一週間前まで部活動をしていた私は、公立高校入試の当日から練習を再開しており、松蔭高校合格の報告をするために中学校へ行き、その日も部活動をした。

それからの三年間は、現在の私に大きな影響を与えた陸上競技、楽譜も読めないし、芸術科目は書道選択のくせに文化祭の有志バンドに出場することを目指し活動することが高校生活の中心であった。実際に二、三年次に

は武道場の特設ステージで演奏することが叶い、当時のことをつい最近のことのように思い出す。一方、勉強の方は「優秀な成績」を修めたなどは口が裂けても絶対に言えず、年に一度は何かの科目で「赤点」を取り、化学や世界史の模試の偏差値は目を覆いたくなるようなものだった(当時を知る友人たちが聞いたら驚くであろうが、私は現在、社会科の教員である)。

教員になって二五年を経過した六年前、念願の母校である松蔭高校に異動することとなった。赴任した当時、二号館南にはかつての購買が残っていたし、「エリスレモン」・「銀チョコ」はもう販売していないが、体育館通路前の購買は今も営業している。二年生の時、毎日昼放課になると一号館一階の廊下でグラウンドを眺めながら友と語らうのが私の日課だったが、廊下から見えるグラウンドの前には女子テニス・女子サッカー部の部室ができて、そこからグラウンドを眺めることはできなくなってしまった。しかし、私にとってのあの場所は、今も甘酸っぱい思い出の場所である。

高校を卒業する頃、担任だった長谷部純先生に勧められて、同窓会のクラス幹事を引き受けた。そのこともあり、同窓会の幹事会に参加していた時期もあったが、三十代以降はすっかりご無沙汰であった。その罪滅ぼしもあって、本校に赴任してから昨年までは校内での同窓会の窓口として関わらせてもらった。結果、一回り二回りも上の先輩方とも懇意にしていた。また、SNSでは一回り二回り下の後輩ともつながり、松蔭高校同窓生のネットワークが広がっていることを嬉しく思う。

学校の近況を少々報告すると、松蔭高校は一昨年から高校入試では「共通校」となり、現在は志願者も県下一、二を争う人気校となった。今年の入学生で共通校により入学してきた生徒で三学年がそろったことになる。共通校元年にあたる現三年生は少々おとなしい感じもする

が、年明けの大学入試では大いに期待している。また、夏休みには老朽化が著しい武道場の「長寿命化計画」として改修工事が始まった。年度末には装いも新たに気持ちよく部活動や体育の授業ができそうである。この会報がお手元に届く頃には、和太鼓部が佐賀県で開催される全国高等学校総合文化祭(全国総文祭)で活躍していると思う。四年連続の全国大会出場である。

この春から教頭となり、生徒と直接関わる機会は少なくなつたが、部活動をはじめとする学校行事に励む生徒たちを応援したい気持ちと松蔭高校を想う気持ちは今までも変わらない。生徒として三年、教諭として五年、教頭として一年の松蔭高校歴九年を迎えるが、母校に少しでも長くいられることを嬉しく思う。来年十一月に予定されている「創立八〇周年記念事業」では、昔懐かしい同期生や多くの同窓生が集うことを願っている。そんな私も同窓生の一人として、そのときを心待ちにしている。全校生はもちろん、同窓生の先輩、後輩の皆さんと、声高らかに校歌を歌いたい。

(高校二年次の修学旅行の写真です。三十何年ぶりに宮島にもむかいます)



保坂正康の『昭和史入門』を読む

昭和37年卒、14回生 伊藤 光彦

昭和史を扱った膨大な数の著作物があるが、次の理由でこの本を選んだ。まず、著者は歴史学者ではなく、極力客観的に記述する立場を採っている。彼は「謙虚に史実を見つめながら、昭和という時代を考えて行く。それはとりも直さず、私たちの父母や祖父母の生きた姿を確認し、…」と述べている。また、記述が平易である。但し、ここで取り上げた書の内容はそれ程平易ではない箇所がある。さらに、彼の言う「聞き書き」という手法に興味がかかる。

第一章「昭和という俯瞰図」で彼の歴史に対する立場を明確にし、唯物史観に即した歴史解釈に異を唱える。その上で昭和という時代から学ぶべきことは次の四点と言う。(1)機械文明の進歩による価値観の変化、(2)思想が日本の社会の軸になりえないこと、(3)世界戦争を抑止する政治技術とは何か、(4)市民的権利の確立とさなる拡大。その上で、彼は昭和史を理解するためのポイントを簡潔明瞭に記述している。

第二章昭和前期は昭和元年から昭和二十年九月二日までである。この章ではいかに軍事主導体制が政治の前面に出てきたか、またいかに崩壊したかを説くため、軍隊および軍官僚を分析している。彼は「次代の者として、この戦争の時代に生きた人びとの悼みを汲みとり、そして懇ろに彼らを埋葬するの思いやりが必要ではないだろうか。」と言う。

第三章昭和中期は昭和二十年八月十五日から昭和二十七年五月三日までを扱う。東京裁判、天皇、新憲法、GHQ、マッカーサー、朝鮮戦争、再軍備等が話題となり、レッドパージにもページ割かれている。私はこの期に「進歩派」の存在が発している事を知った。別の項で昭和天皇は三度退位の意向を示したことを知

りその人物像の理解を深めた。

第四章「経済大国の表と裏」は昭和後期（昭和二十七年四月二十八日～昭和六十四年）である。保坂はこの章を次の四期に分類した上で彼独自の分析をしている。(1)独立を回復してから岸内閣退陣までの政治主導時代、(2)池田内閣誕生から昭和四十八年十月の田中内閣時の石油ショックまでの高度成長時代、(3)同年十一月から昭和五十七年十一月中曽根内閣誕生までの田中主導時代、(4)同中曽根内閣誕生から昭和の終わりまで。

彼の記述を追いながら、私は自分の少年期、青年期、壮年期を振り返り、その時代の有り様をしっかりと受け止めていなかったことを実感している。社会人になってからは日々の新聞を読み、社会の動きには気を付けていたつもりだが、理解ができないままニュースを受け取っていたと自省せざるを得ない。

第五章は「昭和を語り継ぐ精神」の下で、彼は持味を十分に発揮し、自説を主張している。この書はタイトル通り入門の書である。ただし、昭和史に関する知識を満遍なく得ることをこの書に期待するのは無理であるし、彼はそれに全く応えようとはしていない。どのように昭和という時代に向き合うべきかを伝えようとしている。いかなる書も批判的に読むべきであろうし、批判される記述があるであろうが、私には理解しきれないところ、考えさせられるところがある。

保坂は読書案内として昭和史の項で六冊挙げている。それに加えて私は以下二冊追加する。加藤陽子著『それでも、日本人は「戦争」を選んだ』（新潮社）は明治以降の日本が関わった対外戦争を記述することにより日本近現代史を説明している。高校生対象の連続講義を書籍化したものであるが、近現代史を学ぶ姿勢を考えさせる良書である。一読に値する。成田龍一著『現代日本史との対話』（集英社）が、「幕末・維新」「戦前編」と「戦中・戦後―現在編」の二分冊で、最近刊行された。私はまだ読んでいない。

速報

2019

全国高校総文佐賀県大会
和太鼓部演奏

別格でした。4年連続全国大会出場。広島、宮城、長野、そして今年の佐賀。

毎年、彼 彼女たちの熱演を応援する目的に、会場で聴いてきました。

久しぶりの全国大会出場の広島大会、国立劇場の演奏に繋がった宮城大会、

上手いがちよつと優しすぎた長野大会。

今回佐賀大会は、演奏途中から「何があつたん、どうしたん？」と、思わず関西弁が出てくる演奏。

「ひよつとしたら東京あるかも」と思わせる快演でした。

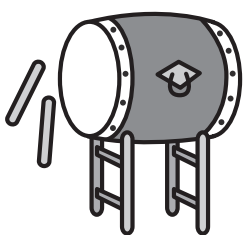
演者全員が、思いも力も一つになり、一つの目標に向け、力一杯バチを打ち、一所懸命にバチを縦に横に舞わす。謡も、2階席の奥まで届けとばかり響くよう朗々と歌い上げる。

終わった時、鳥肌が立ち、思わず拍手を打ち、近くの教諭に握手を求め、「素晴らしかったですね」と声を掛け、安堵感を持つ不思議な体験でした。

8月1日の発表で、8月下旬の国立劇場の出場を逃す結果でしたが、優秀校としてベスト4に選出された偉業を祝福したいと思います。

まずは、取り急ぎご報告まで。

(同窓会会長 星野行正)



陸上部

私たち陸上部は引退した先輩方を見習い、自身を磨き上げ成長できるように、これからも頑張つていきます。また奨励賞を頂けたことを誇りに思います。これからも、応援よろしく願います。

演劇部

また、夏の大会が終わった後にも、自主公演や合同発表会が待っています。その全てで、今回の奨励賞を頂いたことを忘れずに、一生懸命に努力を重ね、観客を楽しませ、自分たちも満足のいくような演劇を目指して、日々の練習をこなしていきたいと思います。

二〇一九年度入試は「超」がつくほどの安全志向の入試でした。国公立大入試では、センター試験で得たハンデを生かして逃げ切ろうとする出願が顕著で、各大学、今までもよりも高得点の受験者が集まり、2次試験での逆転を狙う受験生にとっては厳しい入試となりました。また、私大入試でも幅広く受験する受験生が目立ち、昨年までは、定員を確保できない(いわゆるボーダーフリー)大学でも受験生が集まり、かなり成績上位者でも不合格となりました。最終的に、上位者は他大学にも合格しており、その大学の入学手続きをしませんので、多くの大学が定員割れを起こして、3月末になって慌てて追加合格を出して、定員を確保しようとする異例の事態となりました。このような事態に至ったのは、文部科学省が打ち出した定員厳格化の影響です。昨年に引き続き各私立大学は、志願者が増加しているにもかかわらず、合格者を制限しました。その中で松蔭校の国公立大合格者は、44名(現役39名、浪人生5名)でした。主な大学は、北大1名・金沢大1名・名大2名・名工大1名・愛教大6名・愛県大4名・名市大3名・岐阜大7名・三重大4名・信州大2名・静岡大3名・阪大1名・広島大2名など、全国18の国公立大に合格者を出すことができました。一昨年は89名、昨年56名でした。私立大では、青山学院大、中央大、法政大、明治大、立教大、東京理科大などの関東の難関大、同志社大、立命館大、関西大、関西学院大などの関西の難関大をはじめ、南山大、愛知大、名城大、愛知淑徳大、金城学院大、椋山女学院大など地元の有名私大に多数の合格者を出すことができました。詳しくは、本校のホームページで御確認ください。

本年度の本校の入試を振り返ってみると、国公立大では、2次逆転を狙った受験生が多かったため厳しい結果となりましたが、私大では、南山大84名、愛知大126名、名城大131名と地元の有名私大で合格者数を伸ばすことができた。特に、名城大合格者数を大きく伸ばすことができたことは特筆すべきことです。安全志向がはたらいた一方で、難関大にチャレンジする受験生が減ったため、一定の学力を身に付けてくれることなく、志望校を受験した生徒は合格を勝ち取ることができませんでした。基礎をしっかりと勉強して、早くから準備を始めた人や最後の入試まであきらめず努力した人が、志望校合格を勝ち取ることができたことは、例年と変わりました。

創立80周年 記念事業開催にあたり

実行委員長 大木 崇

昭和56年卒(33回生)

令和2年(西暦2020年) 我母校愛知県立松蔭高等学校は創立80周年を迎える事となりました。昭和15年に旧制中川中学開校から始まり、多くの優秀な卒業生の皆様を排出されて来た中で、若輩者の私が実行委員長を依頼されてお受けする事になったのは誠に恐悦至極です。

現在の松蔭高等学校は愛知県下の公立高校の受験編成が変更され、複合選抜制度において尾張一群と尾張二群

の共通高とされ県下でも希望者上位の高校として位置づけられており難関校とされています。その状況下においていよいよ創立80周年と一つの区切りを迎えようとしています。将来の「まつかげ会」の位置付けも考えて80周年記念事業は過去の先輩方が培ってこられた遺産を引き継ぎ、新たに大きな試みを取り入れて、より楽しく、参加し易く、心に残る記念事業として思っています。そこで、今回80周年記念事業につきましてテーマを設ける事としました。

テーマは「繋がる」です。

このテーマは、昨今の人間関係において、薄れつつあ

る関係をもう一度繋ぎ、縦と横の関係を見直し、新たな縁で繋がって欲しいとの思いからです。又在校生においても、デジタルで繋がるだけでなく、人間味をもって人間関係を作ってもらいたいと願い、今回のテーマとしました。松蔭高等学校のもっとも伝統的な特色は体育祭における軍団制です。1年生から3年生が一つの目標に向かい一致団結する事によって学ぶ縦の関係、クラブ活動を通してできる、先輩・後輩という特別な関係。

しかし、卒業と共にその関係は何時しか希薄となり忘れられていってしまいます。せっかく同じ年代や時期を過ごした、かけがえのない経験を無くしてしまう事は大変口惜しい事と思います。16歳〜18歳の果敢な歳を同じ学び舎で過ごした人達が世代を超えて縁を持つてもいいではありませんか？

80周年を迎える事をよい機会とし、今一度卒業生が人生を振り返り、新たな縁を繋ぎ、在校生もOB会を認識する事によって松蔭高等学校の益々の繁栄と発展につながればとの趣旨のもとに過去に例のない様な、ワクワクする本企画が立案されています。その第一弾が今回使用されている「まつかげ会」のロゴです。

ぜひご理解、ご賛同して頂き、同級生を誘って頂き、又懐かしい方々と旧交を深めて頂きたいと思ひます。

まつかげ会 80周年を迎えるにあたり

実行副委員長 林 克仁

昭和56年卒(33回生)

ある御縁から、80周年 実行副委員長という大役を担うことになりました。

実行委員長の大木 崇氏とは、高校生活の楽しかったこと、苦しかったこと、大笑いしたこと、今となつては、良き思い出と共に過ごした同期生です。

現在は、卒業当時とは違い、目まぐるしく変わる世界情勢、太陽の活動なのかそれとも

CO₂による温暖化からなのか、地球環境の変化、また、長生き社会を迎え、年金などを含む将来への不安を持つ後輩も少なくはないとおもいます。

だからこそ、年齢を超えた同窓会周年事業は、同窓というキーワードをもとに、松蔭高校という場で、多感な時期を過ごした先輩・同級生・後輩が、一つの場所に集い、新たなチャネル創りの場として提供出来ればと思ひます。

同窓生が、希望を与えられるよう全力投球していきます。

記念事業

テーマ

繋ぐ

R2(2020)11月7日(土)

第一部

名古屋公会堂 13:30~16:30(予定)

コンセプト

Challenge~輝く未来~

80周年記念式典 記念講演

「チャンスは必ず来る ~チャンスを逃がすな~」



榊原 有佑 (H8年卒 53回生)
AND Pictureinc 映画監督



▶▶▶ 経歴

榊原 有佑 (さかきばら ゆうすけ)

松蔭高校出身(53回生 H8年卒)

卒業アルバムに、「将来は映画監督」と表明。

理学療法士として、多くの患者さんたちとの交流の中での実体験から、
その特異な感性を武器に独自の世界観を作り上げた映画「栞」。

北京国際映画祭、最優秀映像賞を受賞したKINOTAYA現代日本映画祭をはじめ
多くの映画祭に出品。

もし自分が、理学療法士としてこのような体験をしたら、その後どうするだろう。

考えさせられる映画です。

当日、午前中、名古屋市公会堂4階集会室にて上映会を予定しています。

ボランティア募集

来たる2020年11月7日に開催される創立80周年記念大会並びに記念パーティーにおいて100名のボランティアを募集します。詳しくはホームページ(<http://matsukagekai.main.jp>)をご覧ください。

前日の6日(一部少人数)と7日に渡るボランティアとなります。当日の大会を記念パーティーを共に大いに盛り上げてくれる仲間を募集します。

特に67回生と68回生の皆様振ってエントリーして下さい。勿論ボランティア参加の皆様にはよき思い出となる事はもとより、素敵な特典をご用意されております。

ボランティア内容

- ・会場受付
- ・会場内整理・案内
- ・会場外案内(トラフィック担当)
- ・舞台アシスタント、搬入搬出
- ・物販等 他

前日・当日の
会運営にお手伝いして
頂く方を約100名
募集します。



まつかげ会
MATSUKAGE

今回まつかげ会のロゴを作成しました。

80周年

第二部

ANAクラウンプラザホテルグランコート
17:00~19:30(予定)

コンセプト

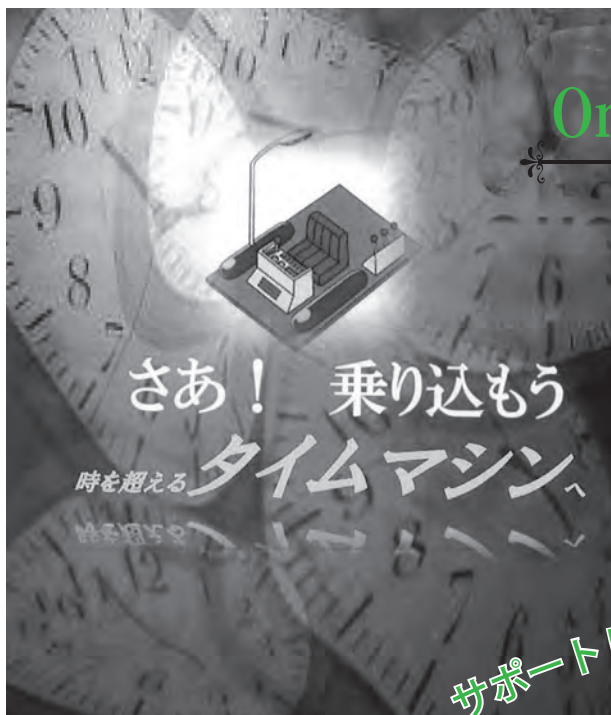
Once more～あの輝きを！～

タイムマシンへ乗り込むのはあなた

懐かしい日々 先輩・後輩という言葉の響き
懸命に汗を流した日々

今どうしてる？

戻りたい場所に 会いたい君に



サポートしてくれるのはSinon

Sinon

彼女の歌声は、カーペンターズのボーカリスト
今は亡きカレンを彷彿させ、兄リチャードが
「カレンが天国から舞い降りてきた」と言わしめた程。
8月に行われる横浜でのカーペンターズナイトの
コンサートチケットは、数十分で完売。
大阪公演でも、発売と同時にSOLD OUT。
今回が、名古屋での初めてののお披露目となり、
素敵な思い出をサポートしてくれることでしょう。



80周年まつかげ会
オリジナルグッズを作成

松蔭高校とまつかげ会のロゴを使用した
オリジナルグッズを作成予定です。

80周年記念誌を発行し
広告を募集します

広告掲載費については、ホームページ
(<http://matsukagekai.main.jp>)をご覧ください。

80周年記念にあたり

同窓会会長 星野 行正

昭和48年卒(25回生)

80周年という節目に、同窓会会長として迎えることができそうで、身に余る光栄と存じます。

この任に就いてから、他校の同窓会活動状況を見聞きすることが増えました。構成メンバー 学校への支援内容 周年事業の内容・参加人数 そして財務内容 等々、どれを見ても少々お寒い状況なのが、当校の同窓会『まつかけ会』です。

勿論、私自身の課題ではありますが、この80周年事業を、今後の様々な取り組みへのスタートとします。

中川中学・松蔭高等学校の同窓から卒業した3万名の中から、一人でも多くの同窓生が、懐かしく、楽しく、目頭を押さえたり、そして満面の笑みを持ってお帰り頂ける会にしたい、と考えています。

同窓会としての役割が、同窓生の皆様には、ご不満な部分が多々あるとは存じますが、90周年100周年に向け、存在感のある同窓会にしていきたいと思ひます。老若男女、幅広い世代から、多くの皆様のご協力ご参加をお待ちしております。宜しくお願ひします。

まつかけ会に寄せて

同窓会会長代行 高橋 正敏

昭和48年卒(25回生)

私は本年満65歳を迎えます。

松蔭高校を卒業してから47年…、振り返ると当時を懐かしく思うとともに改めて感謝の気持ち、日々増してきております。

卒業後しばらくは目の前に次々と新しいステージが拡がり、大学・社会人へとステップアップしていく過程では、正直言つて少し母校を振り返る余裕がなかった時期がありました。

社会人として出会わせていただいた多くの人々の中には母校の先輩後輩もおられたり、一番びっくりしたのは、同級生なのに高校時代には全く接点がなかった人ともお会いすることができました。

出身高校が同じという不思議な縁は、あつという間にお互いの距離を近づけてくれました。

私のような年齢の皆様はそろそろリタイアを含めてお仕事から徐々に離れられる方も多くいらつしやると思ひます。そしてお仕事関係のコミュニティから地域や学生時代のコミュニティへと活動の場を変えられるケースがあたりになるかと思ひます。久々にお会いになる高校時代の同級生との新たな交流が始まる方もいらつしやるで

しょう。

様々な経験をお互いたくさんしてきて、これからの人生にとって大切な生き方を学ばせていただく機会も多くなってくるでしょう。

私も様々な場面を積極的に楽しませていただきながら、松蔭高校に在校した不思議な縁を今一度かみしめてこれからも自分らしくバイタリティ溢れる前期高齢者になろうと思つております。

来年には松蔭高校の創立80周年事業が予定されています。是非この機会に旧交を温め、また、新たな出会いの場として皆様とお目にかかれることを今から楽しみにしております。



まつかけ会ゴルフコンペ第33回

第33回まつかけ会ゴルフコンペは、平成30年10月16日（火）京ヶ野ゴルフ倶楽部に於いて賑やかに開催されました。今回の参加者は46名でした。今大会は32回生が5名の参加がありました。今回の優勝者は、前回同様26回生の稲垣貞男君がグロス83、ネット73.0のスコアで2回目の優勝をいたしました。

尚、ベストグロス・ベストハンデは23回生の小本明宏君でした。

次回の大会は参加者を多数集めて、賑やかに開催したいと思っておりますので、初めての方大歓迎です。是非参加をお願いいたします。（事務局）

優勝

26回生 稲垣 貞男

感銘を受けました。参加者最長老6回生の奥村大先輩が2位でした。今回から23回生5名に初参加して頂き、参加者の平均年齢も下がり活気づきましたが、その中で小本先輩がスコア71でベストグロス賞に輝きました。なにやら健康寿命を競っているようで恐れ入りました。

以上



順位	競技者名	GROSS	HCAP	NET
優勝	稲垣 貞男	83	12.0	73.0
準優勝	奥村 巳善	97	22.8	74.2
3位	寛 靖彦	91	16.8	74.2
4位	小本 明宏	71	- 3.6	74.6
5位	久田 正博	88	13.2	74.8
6位	富田 善光	100	25.2	74.8
7位	加藤 謙一郎	87	12.0	75.0
8位	青木 八束	92	16.8	75.2
9位	山田 健二	79	3.6	75.4
10位	岩間 次郎	90	14.4	75.6

まつかけ会ゴルフコンペ第34回

第34回大会はスタート時点では曇り空でしたが、その後晴れて絶好のゴルフ日和になりました。参加者の皆さんは日ごろの腕前を遺憾なく発揮されたものと思われます。今回も参加者は、40名の参加を頂きました。今回の優勝者は、11回生の岡田義郎君でグロスが96、ネットが74.4で2回目の優勝でした。

尚、ベストグロス・ベストハンディは17回生 山田健二君でした。

次回秋季大会は10月に予定しております。初めて参加される方大歓迎です。奮って参加をお願いいたします。（事務局）

図らずも優勝

11回生 岡田 義郎

毎回楽しんで参加しています。心配していた豪雨も未明に上がり、東名阪集中工事も関ヶ原IC経由で到着。先輩2名のキャンセルがあり、7回生寛、7回生長尾両氏同期荒川君と楽しくプレーしました。両先輩共、よく飛ばされルールには忠実と、さすがだなと感じました。私はもう少し飛ばそうと微調中。荒れたゴルフが隠しホールにうまくはまり、申し訳ない気持ちです。幹事スタッフに感謝して又次回又参加したいです。



順位	競技者名	GROSS	HCAP	NET
優勝	岡田 義郎	96	21.6	74.4
準優勝	安藤 登喜尾	102	27.6	74.4
3位	宮崎 弘一	94	19.2	74.8
4位	清水 光洋	99	24.0	75.0
5位	内山 堅次	98	22.8	75.2
6位	稲垣 貞男	92	16.8	75.2
7位	中嶋 真吾	91	15.6	75.4
8位	長尾 正己	100	24.0	76.0
9位	安井 哲夫	99	22.8	76.2
10位	早川 栄一	99	22.8	76.2

荒川	岸(山田)	水谷	杉野	藤野	青山	飯田	山岸	田中	志津野	伊藤	佐藤	鈴木	梅村	細川	奥村	鈴木	山崎	鈴木	水野	佐藤	吉田	菊岡	横井	岡田	林田	野村	蟹江	杉村	鈴木	風岡	伊藤	加藤	近藤	石室	堀田	中尾	安井	水野	土谷	飯田	山田	土方	高桑	
淨信	邦夫	絹子	裕茂	幹雄	正治	健次	康利	雅行	博文	賢一	英利	正典	隆二	讓二	彰司	堅文	章信	三郎	幸生	和正	豐和	吉田	岡博	井隆	田喜	山英	野良	蟹明	村幸	木正	水野	伊藤	加藤	近藤	石室	堀田	中尾	安井	水野	土谷	飯田	山田	土方	高桑
信	ひとり	子	茂	雄	治	一	利	雅	文	一	利	典	二	二	司	源	介	郎	幸	正	和	博	隆	喜	英	良	真	進	幸枝	正	正	正	文	幸	久	登	繁	豊子	和子	和実	哲夫	大久保		
牧平	星	栢	森	澤	柳	小	金	吉	大	望	秀	山	岩	市	立	奥	岡	古	寺	久	成	水	成	木	西	肆	伊	里	三	伊	山	前	河	竹	加	坪	吉	近	森	波	土	飯	山	高
(山下)	恒	安	尚	本	瀬	長	沢	大	板	山	熊	山	竹	川	木	村	池	倉	間	間	水	成	下	木	野	失	藤	井	三	河	山	平	竹	加	坪	吉	近	森	波	土	飯	山	高	
順子	正宏	富士	登	三枝	田	沢	茂	幸子	幸	秋	みゆき	弘幸	美子	賀代子	昌昇	尚	光夫	泰夫	常幸	幸	久美子	満幸	規子	孝司	武	房子	勝	洋子	初美	政	久	雅芳	光隆	昭夫	彰彰	明彦	正彦	初美	芳二	義雄	大保			
順子	正宏	富士	登	三枝	田	沢	茂	幸子	幸	秋	みゆき	弘幸	美子	賀代子	昌昇	尚	光夫	泰夫	常幸	幸	久美子	満幸	規子	孝司	武	房子	勝	洋子	初美	政	久	雅芳	光隆	昭夫	彰彰	明彦	正彦	初美	芳二	義雄	大保			
順子	正宏	富士	登	三枝	田	沢	茂	幸子	幸	秋	みゆき	弘幸	美子	賀代子	昌昇	尚	光夫	泰夫	常幸	幸	久美子	満幸	規子	孝司	武	房子	勝	洋子	初美	政	久	雅芳	光隆	昭夫	彰彰	明彦	正彦	初美	芳二	義雄	大保			
順子	正宏	富士	登	三枝	田	沢	茂	幸子	幸	秋	みゆき	弘幸	美子	賀代子	昌昇	尚	光夫	泰夫	常幸	幸	久美子	満幸	規子	孝司	武	房子	勝	洋子	初美	政	久	雅芳	光隆	昭夫	彰彰	明彦	正彦	初美	芳二	義雄	大保			
順子	正宏	富士	登	三枝	田	沢	茂	幸子	幸	秋	みゆき	弘幸	美子	賀代子	昌昇	尚	光夫	泰夫	常幸	幸	久美子	満幸	規子	孝司	武	房子	勝	洋子	初美	政	久	雅芳	光隆	昭夫	彰彰	明彦	正彦	初美	芳二	義雄	大保			
順子	正宏	富士	登	三枝	田	沢	茂	幸子	幸	秋	みゆき	弘幸	美子	賀代子	昌昇	尚	光夫	泰夫	常幸	幸	久美子	満幸	規子	孝司	武	房子	勝	洋子	初美	政	久	雅芳	光隆	昭夫	彰彰	明彦	正彦	初美	芳二	義雄	大保			
順子	正宏	富士	登	三枝	田	沢	茂	幸子	幸	秋	みゆき	弘幸	美子	賀代子	昌昇	尚	光夫	泰夫	常幸	幸	久美子	満幸	規子	孝司	武	房子	勝	洋子	初美	政	久	雅芳	光隆	昭夫	彰彰	明彦	正彦	初美	芳二	義雄	大保			
順子	正宏	富士	登	三枝	田	沢	茂	幸子	幸	秋	みゆき	弘幸	美子	賀代子	昌昇	尚	光夫	泰夫	常幸	幸	久美子	満幸	規子	孝司	武	房子	勝	洋子	初美	政	久	雅芳	光隆	昭夫	彰彰	明彦	正彦	初美	芳二	義雄	大保			
順子	正宏	富士	登	三枝	田	沢	茂	幸子	幸	秋	みゆき	弘幸	美子	賀代子	昌昇	尚	光夫	泰夫	常幸	幸	久美子	満幸	規子	孝司	武	房子	勝	洋子	初美	政	久	雅芳	光隆	昭夫	彰彰	明彦	正彦	初美	芳二	義雄	大保			
順子	正宏	富士	登	三枝	田	沢	茂	幸子	幸	秋																																		

平成30年度「まつかげ会」会計報告

〈自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日〉

収入の部	
繰越金	5,235,575円
30年度入会金	1,790,000円
会費	2,880,000円
OBより寄付	45,000円
利息	53円
合 計	9,950,628円

支出の部	
会報36号発行費	2,714,596円
会費納入手数料	135,571円
振込手数料	2,808円
ホームページ作成費	298,080円
卒業証書ファイル代	261,446円
新入生校章代	162,000円
役員会・会合代	129,992円
転入教員記念品	9,720円
通 信 費	360円
アカデミー講師料及び旅費	30,000円
まつかけ会創立 80周年記念大会実行委員会へ	200,000円
合 計	3,944,573円

差引残高 次年度繰越金 6,006,055円

上記の通り会計報告をいたします。 会 計 佐野 孝幸

會計監査

監査の結果、正確妥当であることを認めます。

令和元年5月17日 会計監査 児玉 康彦

[illegible]

教職員異動報告

●平成31年度

【退職者】

教諭 飯田 尚志(保健体育)愛知県立松蔭高等学校(再任用)

【転出者】

教頭 桑山 幸久(保健体育)スポーツ局スポーツ課(主幹)へ

教諭 大橋 一幸(地歴公民)愛知県立松蔭高等学校(教頭)へ

久住 智之(英語)愛知県立春日井高等学校へ

内藤 弘幸(英語)愛知県立熱田高等学校(定時制)へ

飯島 芳(数学)愛知県立豊田西高等学校へ

和田 麦彦(数学)愛知県立惟信高等学校へ

大谷 正作(英語)愛知県立緑丘高等学校へ

長谷川尚之(国語)愛知県立名古屋西高等学校へ

平松 茂 愛知県立春日井高等学校へ

主 査

【期間満了者】

教諭(再任用) 林 秀樹(数学)愛知県立松蔭高等学校(非常勤)へ

期限付教諭 石樽 美紀(英語)愛知県立熱田高等学校へ

期限付任用教員 管原実知代(家庭)愛知県立南陽高等学校へ

【転入者】

教頭 大橋 一幸(地歴公民)愛知県立松蔭高等学校から

萩原 清美(英語)愛知県立千種高等学校から

石井 光(地歴公民)愛知県立旭陵高等学校から

高橋ゆとり(英語)愛知県立南陽高等学校から

清水 治馬(数学)愛知県立惟信高等学校から

主 査 中川美津子 愛知県立中村高等学校から

教諭(再任用) 山本 誠(地歴公民)愛知県立熱田高等学校から

加藤 晃樹(理科)愛知県立千種高等学校から

小菅 恭子(国語)愛知県立惟信高等学校から

飯田 尚志(保健体育)愛知県立松蔭高等学校から

【期限付・臨時的・非常勤等】

期限付教諭 箕浦 尚也(数学)

臨時的任用教諭 犬塚由美子(家庭)

非常勤講師 林 秀樹(数学)

鈴木 晴恵(情報)

中村 瑠美(理科)

宮本 斉子(英語)

野村るみ子(英語)

川崎 寿栄(英語)

まつかけ会事務局

改姓 住所変更 等のご連絡時に、送付された住所・氏名の上
部に記載されている

例(昭48高F)(平12高3)を必ずご記入下さい。

また、同級生・同窓生で、町名 地番が変更になり、届かなくな
ったという方がいらっしゃいましたら、メール、FAX、郵便 等
でご連絡頂くようお願いください。

(宛先不明との理由で大量に戻ってきました。)

同窓会(まつかけ会)HP <http://matsukagekai.main.jp>

事務局／同窓会会長

星野行正 〒453-0812 名古屋市中村区西米野町 1-76-5
FAX(052)482-8600

学校に事務局は有りませんので連絡は郵送か FAX にて会長宅へ
お願いします。

同窓会幹事<松蔭71回>

1組	翠 黎二	4組	光岡 佑真	7組	岩本 にな
	三輪 侑利		吉田 真菜		風岡 宏哉
2組	○長谷川 穂	5組	酒井杏由菜	8組	川合 巴菜
	宮下 雅男		◎鶴田 優作		三井 颯斗
3組	杉浦穂乃果	6組	荒川 美空	9組	鵜飼 紋子
	宮地 直輝		山城 健護		坪井美怜奈

(敬称略・◎学年代表、○は副代表)

住所変更届

氏 名
(旧姓)

卒業年度 昭和 年
平成 年

普通 組
商業 組

新 住 所

電話 () -

旧 住 所

以上をご記入の上、同窓会事務局に郵送。

郵送先

愛知縣中川中學校 同窓会「まつかけ会」

愛知県立松蔭高等学校

会長宅 星野行正

〒453-0812 名古屋市中村区西米野町 1-76-5

FAX(052)482-8600